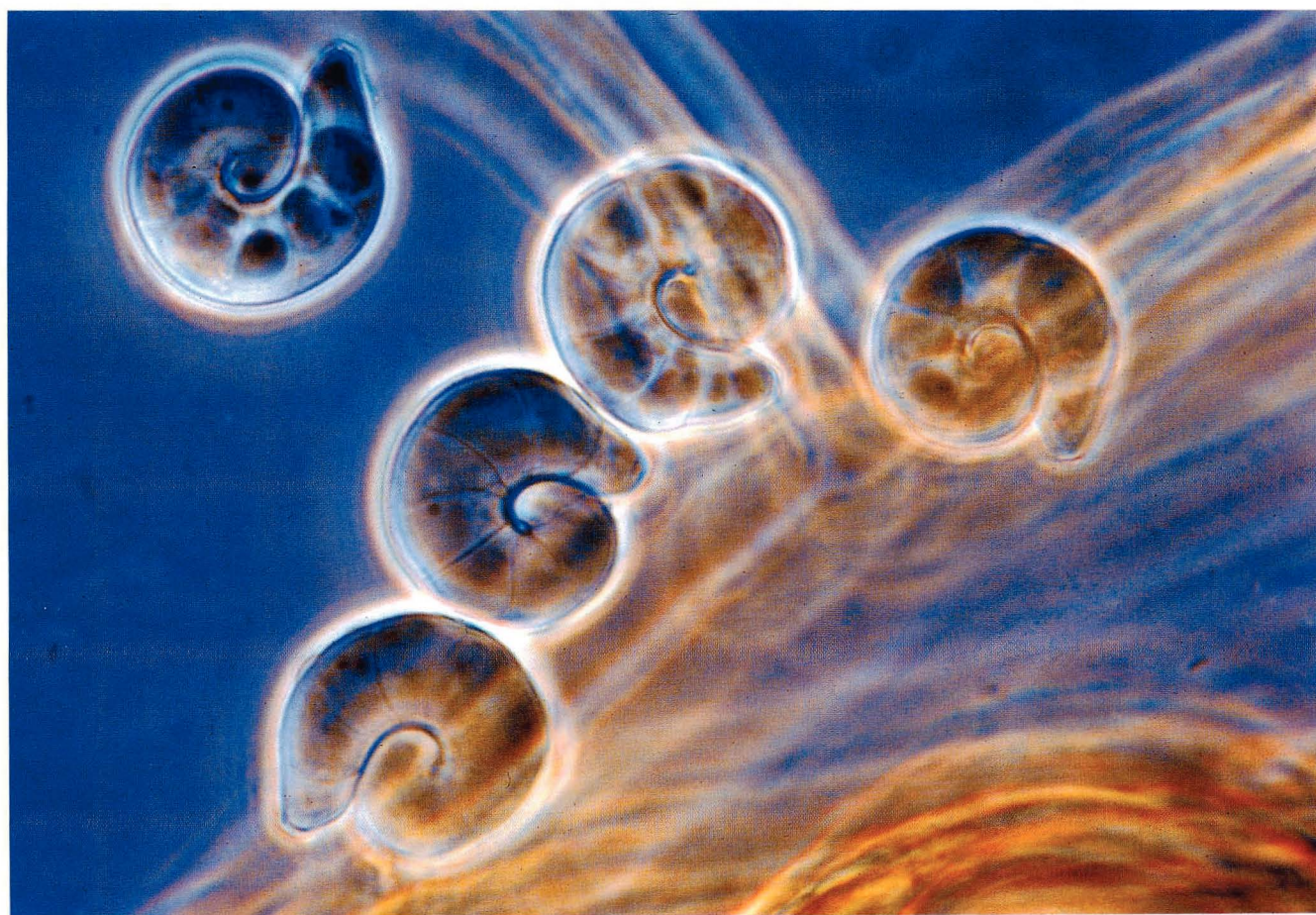


# 自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 5, No. 2 神奈川県立 生命の星・地球博物館 June, 1999



## ヘリコーマ属(カビ)の一種

—ミクロの世界のアンモナイト?—

*Helicoma* sp. の孢子

長径は約0.02mm (位相差顕微鏡写真)  
1999年2月21日、小田原市入生田、長  
興山紹太寺界隈で採集

出川洋介 (学芸員)

朽木表面に生えていた茶色いカビの孢子です。カビと聞いた途端に悪者!と決めつけしないで下さいね。多くのカビは自然界では分解者として重要な役割を果たしており、中には私たちの生活に有益なものもいるのです。顕微鏡に向かっていると、このようにユーモラスな姿に出会うことがよくあります。「アンモナイトのようだ」とは古生物担当学芸員の感想です。学名ヘリコーマは、らせんや渦巻

きを意味する言葉に由来します。独特な渦巻き型の孢子を形成するカビには世界で約40属170種が知られていますが、その多くは溪流沿いの朽木などに生育し、一説には水環境に適応しているのではないかと考えられています。このカビは、いったいどこでどのような生活を送っているのでしょうか?ミクロの世界は未だたくさん謎に包まれており、彼らから学ぶべきことはたくさんあります。